

第5回流山市市民参加推進委員会 議事録（概要）

- 1 日 時 平成30年8月27日（月）午後3時～5時15分
- 2 場 所 流山市役所第2庁舎3階 301会議室
- 3 出席委員 井原委員、吉永委員、秋山委員、今村委員、國府田委員、山中委員、上平委員、和田委員、坂井委員、森委員
- 4 欠席委員 無
- 5 傍聴人 無
- 6 事務局 湯浅市民生活部長、樋口コミュニティ課長、中橋課長補佐、川名係長、香月主事

7 議題

- (1) 答申（案）について
- (2) その他

8 協議内容

委員長

それでは、会議を開催する。初めに本日の出欠報告をする。10名中10名で定足数に達しているため、会議は成立している。

配布資料と進行について事務局から説明をお願いします。

事務局

本日の会議資料として次第、答申（案）及び前回取り纏めていただいた評価シートをお配りしている。評価シートについては事務局として前回の修正を踏まえたものを用意した。

本日は、答申の完成を目指した議論をお願いしたい。

お配りした答申（案）については、各委員の修正を反映したものをお配りしている。

委員長

ありがとうございました。それでは本日は答申（案）について審議したい。

では早速、最初のページから確認していきたい。

～ 答申確認中～

A 委員

答申(案) P 2 の市民の関心が薄いという表現はどうか。市民の関心を高められなかったという表現の方が良いのではないか。

委員長

「市民の関心を高められなかった」に変更する。

B 委員

答申(案) P 3 の(2)でスケジュールの妥当性について述べられているが、後の手続きの改善では、アンケートの実施期間のことについても述べられている。P 3 の方でも述べた方が良いのでは。

委員長

改善の方でアンケートについて述べられているので、P 3 でも。アンケートについて述べた方が良いということか。

副委員長

答申(案) P 3 のスケジュールの妥当性の中に アンケートの実施期間についても述べるということである。

A 委員

改善の を答申(案) P 3 の で述べた方が良い。

委員長

答申(案) P 3 (3) 事業の内容や市民参加の仕組みに対する市民等への情報提供についての「捉われない」の箇所は「難しい行政用語を避け、市民等にわかりやすい表現を使用するよう」に変更する。

C 委員

答申(案) P 3 (3) 事業の内容や市民参加の仕組みに対する市民等への情報提供については、「また、情報提供資料に関しては、複数の事業において市民等に分かりやすい概要版等の資料が作成されており、改善を評価するが、一部事業では、

未だ複雑なデータや行政用語が用いられていた。」にした方が良い。

D委員

「改善意欲を評価するが」の方が良い。

E委員

「一部の」にした方が良い。

C委員

答申(案)P4(1)市民参加の方法についての だが、平成29年度の答申に基づくのであれば、「パブリックコメントの実施に際し、平成29年度の答申において委員会より提言したパブリックコメント8箇条に基づいて実施した事業と、そうでない事業があった」と記載した方が良い。

B委員

()書きは違和感があるので、()を外し、「具体的には」にした方が良い。

副委員長

「委員会」でなく「本委員会」の方が良い。

F委員

「具体的に」以下はパブリックコメント8箇条の意見が集約されているという趣旨で良いか。

B委員

()を外し、「具体的には」と変更した方が良いと言ったが、その部分は削除し、「十分に趣旨を踏まえること」に繋げて良いと思う。

C委員

スケジュールの期間を機械的に設定するとあるが、各担当者は機械的に設定しているわけではないと思うので、断定したような言い方には抵抗を感じる。そのため、機械的には書かなくて良いと思う。

D委員

「スケジュール調整が困難な」という表現はわかりにくいので、「スケジュールとの調整の関係上、十分な実施期間が確保できない場合には、その理由を実施シ-

トに記入してください」などにした方が良い。

E 委員

実施シートに記入するというのは我々が理解できるようにということで、それから市民にも十分周知しなさいという意図か。

D 委員

期間が短いなりにその理由を明記するのはどうか。

E 委員

期間が短いなりに、その理由を明記することが今は十分伝わっていないので、調整ができてないように見える。

A 委員

周知期間が短かったという理由は、今回の事業にあったのだろうか。

事務局

実施シートは常に更新され、市民の方々にも閲覧できるものである。

B 委員

十分な実施期間に周知も付け加えた方が良い。

委員長

答申(案)P3(3)事業の内容や市民参加の仕組みに対する市民等へ情報提供の について、文字の大きさや書体についても考慮する旨を明記した方が良い。

秋山委員

前半に資料作成の旨が明記されているため、最後の資料作成という言葉はいいらない。

副委員長

答申(案)P3(1)市民参加の方法の選択について のところであるが、はパブリックコメントについて説明した内容でスケジュールについても記載されているが、その下段(3)事業の内容や市民参加の仕組みに対する市民等へ情報提供においても市民参加全体のスケジュールについても記載されており、重

複している。

答申(案)P3(1)市民参加の方法の選択については、あくまで市民参加の選択についてのことを記載する項であるため、スケジュール等についてはここで述べなくても良い。

委員長

次に「4 今後に向けて」についての内容を確認したい。

B委員

事業と事案が混在している。

委員長

事務局に確認するが、事業と事案に区別はあるのか。

事務局

事業で統一したい。

B委員

それに合わせ、評価シートも混在していたので訂正してもらいたい。

E委員

模範となる事業ごとに番号が()で振られているが、それもいないと思う。

委員長

見出しのみで良いということか。

A委員

答申(案)P5についてだが、パブリックコメントの応募が少ない理由として、市民が事業について「知る」「関心をもつ」機会が少なかったことが原因であると記載されているが、パブリックコメントの応募が多かったからといって、必ずしも「関心」が高かったとは言い難い。具体的に何を指しているのかよくわからない。

E委員

市民説明会など、市民が直接参加する機会が少なかったという意味だと理解

している。

F 委員

少ない理由の背景の一つとして、市民の「知る」「関心をもつ」機会が少なかったと言えるのではないか。

E 委員

ただ、パブリックコメントをやれば良いという風潮がある。パブリックコメントの意見が少ないならば、意見が少ないなりに何か対策をしなければと思う。

A 委員

審議会とパブリックコメントの組み合わせが一般的であって、それ以外にも説明会なども必要であるという意味で捉えれば良いのか。

D 委員

市民が当事者であるということに気づいてないことから、それを気づかせる取組を実施してもらいたい。

『「知る」「関心をもつ」機会が少ないこと』からの後に、「行政側からの様々な働きかけによって、各事業において当事者である市民に対し、事業内容のより一層の周知が必要である。」を記載した方が良い。

委員長

次に模範となる各事業について確認する。事業によって模範事業として選択する方法が少し違う。その点について事務局に説明をお願いしたい。

事務局

各事業の評価として企画政策課の「流山市市民投票条例素案」と子ども家庭課の「子どもをみんなで育む計画～流山市子ども・子育て支援総合計画～」はA評価であるが、環境政策課の「市の鳥の制定」はA - 評価である。同じく社会福祉課の事業についてもA - 評価であったが、今回模範として外させていただいたのは、社会福祉課は昨年度の答申の際に模範事業として挙げさせてもらい、内容に一部重複箇所があったため、今回外させていただいた。なぜ、A - 評価で模範事業にしたのかというと、環境政策課の「市の鳥の制定」は条例上、市民参加の手法が必ずするものではなく、また、オオタカの情報の公表を積極的に進めてしまうと、生態系に影響を与えかねない事業であり、今後行政が、参考としていく内容であると判断し、模範として挙げさせていただいた。

E 委員

この事業はスケジュールが短いわりには多くの市民が意見を出している。

委員長

この事業は、評価に値する内容である。
模範事業の2と3の順番を入れ替えたい。

～環境政策課の「市の鳥の制定」は下記のとおり変更～

『本事業は、本来、市民参加の対象事業ではないにも関わらず、市民アンケートやSNSの積極的な活用によって、オオタカを「市の鳥」に制定するという趣旨を十分に説明し、市民の「知る」「関心をもつ」機会を提供した。また、この機会をとらえ、オオタカの生態と棲息環境に配慮する必要性を解説したパンフレットを作成し、配布するなど、オオタカが保護鳥であることも市民等に情報提供したことは高く評価できる。』

委員長

全体的に内容を確認したが他に何かあるか。

F 委員

「事業1」、「事業2」、「事業3」ではなく各課名と事業名を表題につけた方が良いのではないか。

事務局

市民の「知る」「関心をもつ」の書き方を統一させていただく。

C 委員

最後のまとめの部分であるが、「今回の事業評価の指摘事項や模範事例、改善要望課題等の答申内容を十分検討され、より一層の市民参加に取り組んでいただきたい。なお、行政と市民のコミュニケーションの環境づくりが鍵である。さらなる環境づくりを心掛けてもらいたい」というのはどうか。

この内容に肉付けしていただければと思う。

F 委員

答申内容を十分検討していただくことは当然の話なので、重点を置くべきところ

は、これまで以上に市民参加を工夫してもらいたいことである。

E 委員

模範事例のことについては最後に述べておいた方が良いと思う。

G 委員

結局最後に何が言いたいのか簡潔に述べた方が良い。

C 委員

要は、答申をしっかりと読んで検討して欲しいということである。

E 委員

1つの文章にまとめると、「最後により一層の市民参加の促進をするためには、行政と市民等との双方向のコミュニケーション形成が鍵であるため、答申を検討され、今後の市民参加の取組に活かすことを強く望む」というのはどうだろうか。

B 委員

答申をよく読むという内容はいらぬのではないか。

A 委員

最後の内容は昨年度の答申の内容と締め方がほとんど一緒である。

F 委員

最後の文章は委員長・副委員長の判断に任せるといってどうか。

副委員長

簡潔にまとめるならば、模範事業の内容の後に最後の文章をつければ良いのではないか。

委員長

最終的な訂正はメールにてやりとりさせていただければと思う。

最後に、市民生活部長に御挨拶いただければと思う。

～市民生活部長挨拶～

委員長

議題（２）その他について事務局よりお願いしたい。

～事務局より事務連絡～

委員長

それでは本日の議題を終了とする。委員の皆様、お疲れ様でした。